

東京の自由が丘と張り合っている街でも最近はどこか変になっている

☆奥谷さんの幼少の頃の思い出をぜひお聞かせ下さい。

「二楽園」は、大正12年（惟之氏は大正10年生まれ）に、父奥谷奥之助がこ神戸岡本で創業。米国式の大温室を建設し、メロン、スイカ、トマト、ブドウなど、当時珍しかった高級フルーツを栽培していた。阪急と阪神だけが走っていた頃の話です。小学校の時に阪神電車私電が野田より開通し、交通の便の良い環境になりました。近くには森市場があり、そこに行くのが幼い私の楽しみでした。今でいうスーパーのようなもので、赴きは違いますが現在のスーパーよりも賑やかでした。

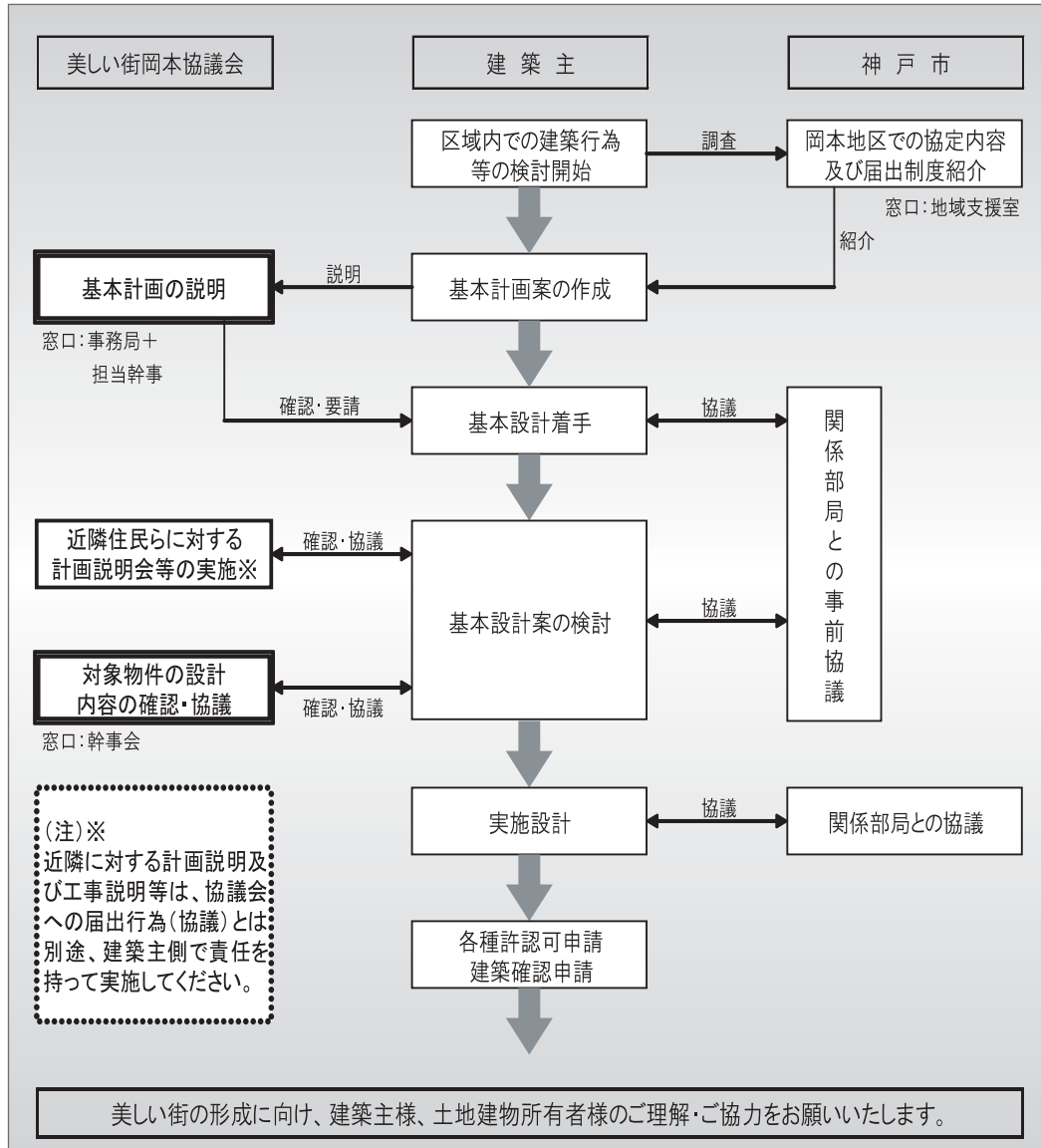
テント小屋での漫才なども見に行きましたね。福井に祖父がいましたが、「本山へ芝居を見に行こう」と言われました。福井は11月から3月まで雪が降り続き溶けないので、祖父はその間こちらへきていました。

☆昭和16年、父の急逝により「二楽園」を継承されてからはいかがでしたか。

戦時中には芋の種を栽培して、御影から本山中心へ苗を配給していました。戦時中は食糧以外の花栽培はできなかつたんです。1丁目は空襲で23件が燃えました。私たちのところも、雨戸はもちろん閉めていましたが爆風でガラスがふっ飛んだ。昭和20年5月と6月の爆撃被害は大きかったですね。空襲で国道2号線の端から端まで15mの穴が空いていた。川西航空機の軍事工場の影響で2度も爆撃を受けました。

建築行為等の事前協議制度が変わります

美しい街岡本協議会区域内において、建築行為等を行う場合に、神戸市の届出に先立って必要となる「まち協に対する事前協議」の流れが、左図のように平成19年1月1日より変わります。



7月20日大空襲でB29が80機も襲来してきた。このときには、温室は残っていましたが、二楽園の店はもうありません。米は1日3合配給。兄は2人戦死（1人は病死）、兄弟で1人残ったという感じでした。

☆大水害、空襲、阪神淡路大震災を経て、岡本の街も随分変わりましたが、一番変わったのは二楽園の駅前ビルでしょうね。神戸市の都市計画部の方も応援していたが、なんとかなったという感じでしょうか。単なる四角い箱ではなく、曲線取れるところは曲線を取ってくれと注文して今のよう建物が出来上がりました。

☆将来的にはどういう風な岡本になったらいいと思われませんか。

何を残したらいいのか……。芦屋、姫路もどこの駅前も大きなビルになってみんな一緒。灘もそうになってしまおう。岡本・本山だけは他とは違うようにしたい。

岡本を紹介するとき「東京の自由が丘などと張り合っている街だ」ということを言い続けていますが、現在は飲み屋のまちになってしまいいまい、どこか変になっている。いわゆる下町のような雰囲気。

少なくとも看板だけでも、もう少し考えてほしい。大阪ミナミでも看板が変わってきませんが、岡本が向かうのはミナミのような街ではないと思います。とにかく、住民や店主、ビルオーナーの自覚を促すということが大事ではないでしょうか。

主な改正点は、建築主が基本設計に着手する前に『基本計画の説明』をまち協事務局に対して行っていただく点と、『対象物件の設計内容の確認・協議』の前に近隣に対する計画説明等を建築主側で責任を持って実施するよう明記した点です。詳しくは、「岡本地区における建築行為等についての事前協議制度」をご覧ください。

リレー連載・岡本人語 ③

美しい街岡本協議会 幹事

小田 敏夫

小体な専門店や職人さんのいる老舗が好きです。必要なもの以外にあまり買いたくありませんが、たまの機会には、そういう店を選ぶようにしています。履物ならばこの店が一番と決めていた店が、京都は南座の近くにありました。「ありました」というのは、残念ながら今年店をたたんでしまったからです。

場所柄もあってか、何万円もする雪駄がずらりと並んでいました。勿論、そんな高級品には手が出ません。専ら値頃な右近（下駄の一種）を買おうと、ときには他所で買った安い台に、ちよっといい鼻緒を上げてもらうこともありました。あまりお金にはならぬ手間仕事にも、気持ちよく丁寧に答えてくれる店でした。あの店で、いつかは立派な雪駄を買おう。それ相応しい人間になりたいものだ、と、ずっと楽しみにしていました。閉店を知ったときは、心の中にぽっかり穴が空いたようでした。第一、履物は必需品ですから、すぐにも困ったことになりました。

そんなとき、ひょんなことから良い店が奈良にあることを知り、先日

訪ねてきました。店のある「奈良町」の、商家の連なる狭い路地を歩くうちにも、段々と期待は高まります。

地味で控えめな看板と昭和の頃のそのままの店構えを見たときの気持ちを、どう表現したらよいでしょう。ネット販売や通販では、決して有り得ぬ出会いの瞬間です。

店の老夫婦のお人柄も好ましく、コーヒーなどよばれているうちに、つい長居となりました。仕事も丁寧、実にしっかりとした仕上がりです。聞けば私と同様、閉店した京都のあの店からこちらにやって来る人もあるとか。「さもあらん」と納得した次第です。奈良を訪ねる楽しみが、またひとつ増えました。長いお付き合いをさせてもらおうと思えます。

※履物を探しに出掛けて、思いがけず「奈良町」の美しさを再認識しました。街全体が醸し出す鄙な古都の空気。町家商家の軒毎の佇まい。人々の暮らし。私達の街の本とは、成り立ちも性格も全く異なる「奈良町」ですが、「美しい街岡本」を考えるヒントが、沢山あるような気がします。

